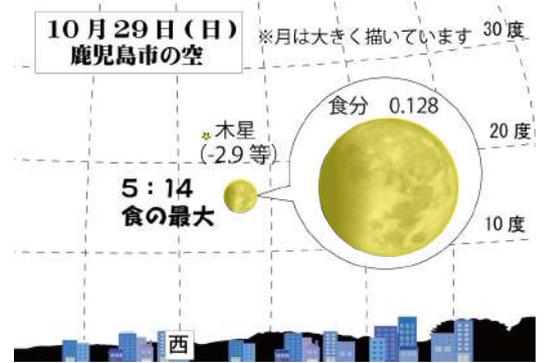


★ 夜明け前の部分月食 ★

10月29日の日の出前、月が地球の影に入り満月が少しずつ欠けていくように見える部分月食を観測できます。西の空低い位置で月食の最大を迎えるため、西の空がひらけたところで観察してみましょう。双眼鏡を使うと月食の様子をより詳しく観察できます。鹿児島市から見える月食予定時刻は以下のとおりです。

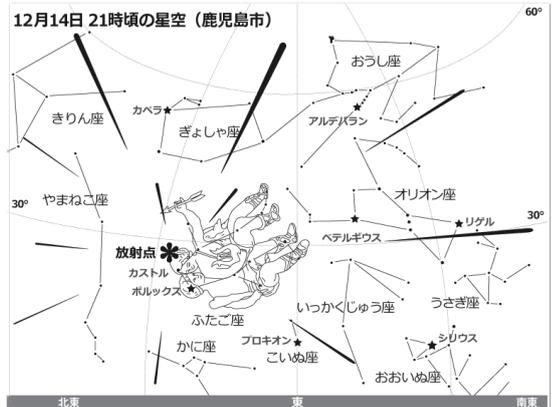
- 4時34分：部分月食の始まり
- 5時14分：食の最大
- 5時53分：部分月食の終わり



★ 注目の天文現象!! 流星群観測のススメ ★

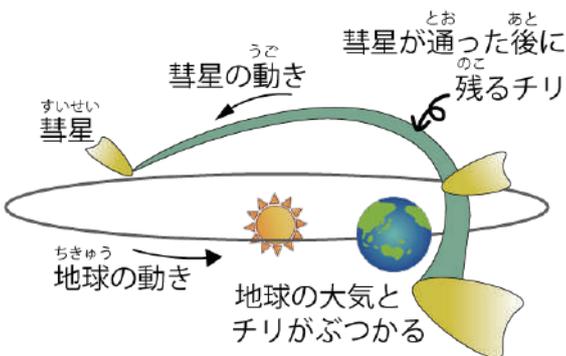
三大流星群の一つ「ふたご座流星群」が12月15日(金)4時頃に極大を迎えます。13日が新月のため、14日の夜から15日の明け方にかけて月明かりの影響を受けることなく多くの流れ星を観察することができそうです。街明かりの少ない所では、多い時で1時間におよそ70個もの流れ星を観察できると予想されています。

右の図のように、流れ星は放射点からあらゆる方向に流れます。見る方角は気にせず、なるべく空の広い範囲を見渡すようにしましょう。目が屋外の暗さに慣れるまで最低15分程は空を眺め、スマートフォン等の光は見ないようにしましょう。



流星群 …流れ星は地上から見ると星空のある1点から放射状に飛び出すように見えます。その中心点を「放射点」と呼び、放射点の方向にある星座の名前をつけて、「〇〇座流星群」と呼びます。なかでも、毎年ほぼ安定して多くの流れ星が見られる1月の「しぶんぎ座流星群」8月の「ペルセウス座流星群」12月の「ふたご座流星群」の3つは『三大流星群』と呼ばれます。

★ 流星群は彗星のこども? ★



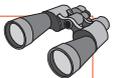
流れ星の正体は宇宙にただようチリです。大きさは1mm～数cmで1円玉(1g)よりも軽いものがほとんどで、明るい流れ星でも10g程度です。そのチリが秒速40～70kmという猛スピードで地球の大気突入した時に、上空約100km付近で発光する現象です。

流星群のもとになるチリの多くは彗星がまきちらしたものです。彗星が太陽に近づくと彗星からチリが放出されます。放出されたチリは彗星と同じ軌道で太陽の周りを回っています。

このチリの帯に地球がぶつかり、チリが大気突入して流れ星として見えます。

地球は一年で太陽の周りを一周するので、チリの帯と毎年同じ時期に接近することになり、流星群のピークは毎年ほぼ同じ日付になります。

★ 「おもな天文現象」2023年10～12月 ★



10月 東の空に輝くエンケ彗星 西の空で部分月食

- 1日：夜明け前東の空にエンケ彗星が輝く ※双眼鏡が必要
- 2日：月と木星が接近
- 9日：10月りゅう座流星群が極大 (出現期間10/5～10/13)
- 10日：月と金星が接近
- 11日：おうし座南流星群が極大 (出現期間9/10～11/20)
- 16日：月と火星が接近
- 22日：オリオン座流星群が極大 (出現期間10/10～11/5)
- 24日：日の出前、東の空で金星が見頃 (西方最大離角) 月と土星が接近
- 27日：十三夜
- 29日：部分月食/月と木星が接近

11月 明るく輝く木星 ゆるやかな活動の流星群

- 3日：木星が見頃(衝/-2.9等の明るさ)
- 9日：明け方、月と金星が接近
- 13日：おうし座北流星群が極大 (出現期間10/15～11/30)
- 18日：しし座流星群が極大 (出現期間11/5～11/25)
- 20日：月と土星が接近 月面Xが見える(13時52分)
- 25日：月と木星が接近

12月 好条件☆ふたご座流星群 小惑星が双眼鏡で観察できる!

- 4日：日の入り後、西の空で水星が見頃 (東方最大離角)
- 6日：ほうおう座流星群が極大 (出現期間12/5～12/6)
- 10日：月と金星が接近
- 15日：ふたご座流星群が極大 (出現期間12/5～12/20)
- 18日：月と土星が接近
- 22日：小惑星ベスタが見頃 月と木星が接近 冬至 (日出7時13分/日入17時19分)
- 23日：こぐま座流星群が極大 (出現期間12/18～12/24)



参照：国立天文台「暦計算室」/アストロアーツ「天文現象カレンダー」/「星空ガイド 2023」